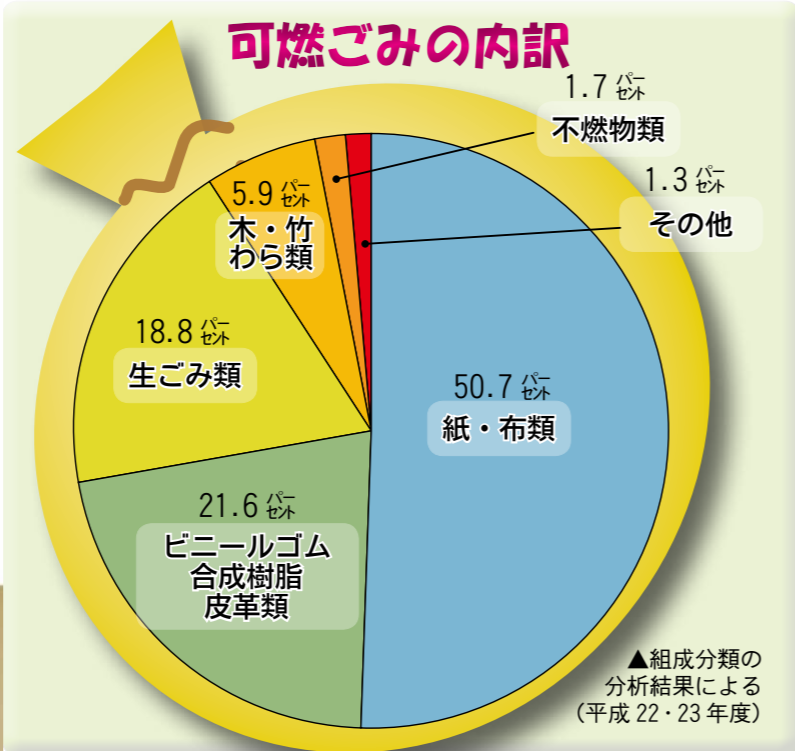




▲家庭での1年分のごみを85%削減したイメージ



# 家庭ごみ減量大作戦

目指せ **85%**

特集 **3R**を推進

昨年度、市内で16,233トンのごみが排出されました。そのごみ処理に掛かった費用は、約6億4,800万円。市民1人当たりでは、約1万2,000円掛かったこととなります。市では、平成27年度までにごみの排出量を1万4,921トン(平成23年度比8.1%)に減らす目標を定めています。一人一人が出すごみの量を減らせば、処理費用が減ると同時に、処理で排出される二酸化炭素も減り、地球温暖化防止へとつながります。実際の調査では、家庭から出る可燃ごみの約85%の削減が可能。ここでは「どうすれば家庭ごみを減らすことができるのか」など、ごみ削減のポイントを紹介します。

問 環境課 ☎26-2111 (内線183)



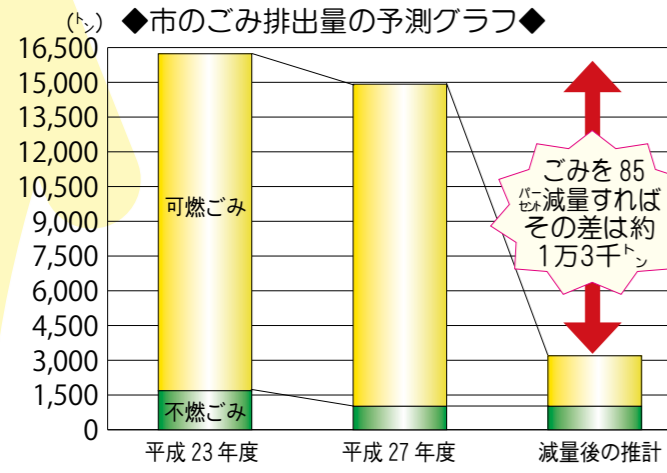
### 市のごみの現状

(年間)

年度	平成23年度
人口	54,877人
世帯平均人数	約2.84人
ごみ排出量	16,233トン
ごみ処理経費	6億4760万円
排出量/人	295.8 <sup>キ</sup>
処理費/人	11,801円
排出量/世帯	840 <sup>キ</sup>
処理費/世帯	33,515円

※処理経費には収集費は含まれません

▲写真は市の一般的な家庭(2.84人)が1年で出すごみのイメージ



### 可燃ごみの内訳

品目	割合(%)	品目	割合(%)
紙・布類	50.7	木・竹・わら類	5.9
ビニール・ゴム 合成樹脂皮革類	21.6	不燃物類	1.7
生ごみ類	18.8	その他	1.3

### 市のごみ排出量

年度	可燃ごみ	不燃ごみ	合計
平成23年度(実績)	14,548トン	1,685トン	16,233トン
平成27年度(目標)	13,909トン	1,012トン	14,921トン
減量後の推計	2,182トン	1,012トン	3,194トン

※減量後の推計は、可燃ごみ85%減の参考値です

**資源回収は年々減少傾向**  
市は、ごみの減量化として食用廃油や飲料紙パックを拠点回収したり、アルミ缶、ペットボトル、びん類を毎月、自治会のステーションで回収したりしています。地域では、PTAや子ども会などが、集団資源回収で新聞紙や段ボール、古着などのリサイクルに取り組んでいます。市でも奨励金などで支援していますが、少子化の影響か、回収量は年々減ってきています。

**意識次第でごみが資源に**  
こうした状況の中、市は平成27年度までに、ごみ総排出量を1万4,921トン、処理費用を5億5,800万円に減らす目標を立てています。さらに市内の可燃ごみを85%減らすことができれば、多額の処理費用の削減が見込めます。可燃ごみの中には、集団資源回収や拠点回収だけでは回収しきれない、プラスチック、発泡スチロールなど、資源として使えるものが、まだまだたくさん残っています。分別すればリサイクルできるこれらのごみを資源として活用するのは、あなた自身の意識です。そのとき一役買ってくれるのが、ふれあいエコプラザです。

**可燃ごみの半分が紙布類**  
NPO法人市民エコ会議が、平成21年に会員15軒の可燃ごみの排出量を調査しました。1カ月分に換算した家庭ごみ(3・1人)63キの内、なんと約85%となる54キが再生可能な資源ごみでした。市内で過去1年間に出た家庭ごみは、不燃ごみが約17,000トン、可燃ごみが約1万4,500トンに上ります。上記の円グラフのように、可燃ごみの内訳によると、紙・布類が最も多く約50%、ビニール類が約22%、生ごみ類が約19%と、この3種類で90%以上を占めます。

可燃ごみは、エコセンター恵那(長島町)で処理します。エコセンター恵那では、可燃ごみを乾燥させ、RDF炭化物を作っていますが、処理には多くの燃料と費用が掛かります。特に生ごみの水切りが不十分だと、何回も乾燥工程を繰り返す、その分費用もかさみます。

不燃ごみは、山岡町の最終処分場に埋め立てています。

ベビーカーなど子ども用品も充実



スポーツ用品もあります



Reuse  
リユース  
再使用

ゆずります・ゆずってください



大型商品はこちらのコーナーへどうぞ

- ①リユースショップにはお得な品物がいっぱい
- ②回収スペースでは、生活雑貨プラなど可燃ごみに出そうなものも回収

Recycle  
リサイクル  
再生利用



▲岩邑小学校4年生に環境学習講座を開催

Reduce  
リデュース  
発生抑制

暮らし方を見直し、3Rを進める方法を提案しています。環境学習講座、小中学生対象の環境学習講座などを実施しています。

**多彩な方法でごみを減量**  
ふれあいエコプラザは、ことし4月に開業した常設型資源ごみ回収拠点施設です。10月までの資源の回収量は約155ト。1日平均約1トの資源が、持ち込まれています。この施設は、3Rを推進しています。3Rとは、ごみの発生そのものを抑えるリデュース、物を繰り返し使うリユース、加工して資源として再利用するリサイクルのこと。

3Rの中で一番大切なのは、ごみの発生を抑えるリデュースです。使い捨て製品の使用を避けたり、マイバッグやマイボトルを持参したりしてごみの発生を抑制します。次に容器や古着などを繰り返し利用するリユース。ふれあいエコプラザでは、リユースショップを開業しています。リユースショップでは、リユースの観点から、暮らしに役立つ環境講座も毎月開催。生ごみを分解する段ボールコンポスト講座やもったいない講座、小中学生対象の環境学習講座などを実施しています。

これだけの物が資源に変わるよ

エコプラザで24品目を回収



- 段ボール
- 古着
- 生きびん
- 小型家電
- 食用廃油
- 新聞チラシ
- 生活雑貨プラ
- 硬質プラ
- 白びん
- ペットボトル
- 小型金物
- 飲料紙パック
- 自動車用バッテリー
- 容器包装プラ
- 軟質プラ
- ペットボトルのキャップ
- 乾電池など
- 蛍光管
- 雑誌雑紙
- 雑紙
- 茶びん
- 飲料用アルミ缶
- 飲料用スチール缶
- 発泡トレイ
- 発泡スチロール
- インクカートリッジ
- CD・DVD
- その他びん



市消防防災センター南側にあるふれあいエコプラザ

使って便利



Reduce・Reuse・Recycle  
**3Rの推進施設**  
**ふれあいエコプラザ**

◆ふれあいエコプラザ◆  
・営業時間  
午前9時～午後4時  
(平成25年3月5日まで)  
・休館日  
月・火曜日、年末年始  
〒509-7203  
恵那市長島町正家1015-3  
(市消防防災センター南側)  
☎25-1515



古着・衣類

ボタン、ファスナーは取る必要はありません

小型家電の電池や燃料は抜いて出してください

小型家電は、木や布、レザー、ウレタンなどを使用しているものと、家電4品目（エアコン・テレビ・冷蔵庫・洗濯機）は受け取れないので、注意してください。



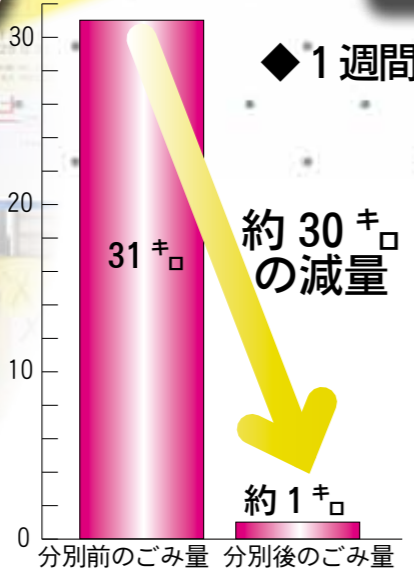
飲料用スチール缶も集めています



資源回収で取り扱っていない飲料用スチール缶は、エコプラザ独自で回収しています。缶を洗ってきれいな状態で持ち込んでください。

なんと約97%の減量大成功!

とあつても簡単



◆ 1週間分のごみの比較 ◆

品目	分別前の量	分別後の量
古紙・紙類	6.5 和	微量
衣類	6.5 和	0 和
金属類	7.5 和	0 和
びん類	2.0 和	0 和
プラスチック類	2.5 和	微量
生ごみ類	2.5 和	0 和 <sup>※</sup>
その他	3.5 和	微量
合計	31.0 和	約1 和

※生ごみは、段ボールコンポストを利用し0とした



市政モニターさんに11月1日から7日まで一週間の資源ごみと家庭から出たごみを持ってきてもらいました。モニターさんのご家庭は、6人暮らし。あらためて見ると、多くの家庭ごみが出ています。

# 市政モニター体験レポート

## 可燃ごみ

# 本当に85%減らせるの？

いつも環境を気にしているが、つつい出してしまうのが家庭ごみ。一口に、ごみの減量化と言ってもなかなか大変だと感じてしまいます。さらに85%の減量化と言われても「本当にできるのか」と疑問に思ってしまう。そこで、市政モニターさんに協力いただき、段ボールコンポストとふれあいエコプラザを利用しながら、1週間分のごみの分別と減量を体験していただきました。



▲モニターさんに家庭ごみの持参を依頼

●エコプラザ利用のポイント●  
ふれあいエコプラザは、水曜日から日曜日まで開業しています。1週間に1回利用すれば、保管場所を取らず出すごみも少なく、仕分ける時間も掛かりません。曜日を決めて搬出するよう習慣付けることがポイントです。  
雑誌や雑紙は紙袋に入れてそのまま出せます。家庭でゴミ袋を工夫してみても、発泡トレーと容器包装プラを見分けるポイントは、容器を割ってみてください。パキッと割れるものが、発泡トレーです。段ボールは、色や材料ではなく、構造で判断します。断面が三層になっているものが段ボールです。  
回収場所にある看板を見て、入れてください。分からないことがあれば、何でも私たちスタッフに聞いてください。

### 回収部門スタッフ



町野恵美子さん<sup>Ⓔ</sup>  
中澤千鶴さん<sup>Ⓔ</sup>

# 段ボールコンポスト 生ごみ減量マジック

市内の可燃ごみの約20%を占める生ごみは、ぜひ家庭で処理したいもの。生ごみを減らすことは、ごみの減量化と経費節減に大きく役立ちます。ここでは、市民エコ会議の市川そのさんによる、段ボールコンポストを使った生ごみの処理方法を紹介し、詳細は市民エコ会議が行う講習を受講しましょう。



4人家族で1箱が目安です



約3カ月分の生ごみを処理できます



空気が入りうまく出来ると臭いせん

月に一度、中身を出して天地返しをする。固まっている生ごみをほくして段ボール箱に戻すと空気が入り、一段と分解が進みます。



コンポストキャップ

底面の通気性を良くするため網目状のブレースを伏せた上にコンポストを設置。虫よけの用のコンポストキャップをかぶせる。

段ボールは、コンポスト専用の段ボールを使用。研修を受ければ、格安で購入が可能。虫の侵入を防ぐために、段ボール箱の底面と側面など隙間をなくすようにクラフトテープを貼る。



▲市川さんと出来上がった生ごみ堆肥

## 生ごみから堆肥に再利用

水分が多くて燃えにくい生ごみは、家庭内で処理するのが一番効果的です。ふれあいエコプラザでは、生ごみから堆肥を作ることを進めています。生ごみ堆肥は、段ボールコンポストの他に、EMぼかしや設置型コンポストを利用して作ることができます。畑や広い土地がなくても大丈夫。あなたも生ごみ堆肥で、野菜や花を育ててみませんか。エコプラザでは、段ボールコンポストによる堆肥の作り方を講座を開催しています。生ごみがどんどん消えて、堆肥に生まれ変わる。簡単な段ボールコンポスト。講座を受講した方は、半額で必要基材を購入することもできます。

**段ボールコンポスト講座**  
 とき 平成25年1月19日(土)  
 午前10時～11時半  
 ところ ふれあいエコプラザ  
 定員 20人  
 料金 無料  
 申し込み方法 ふれあいエコプラザに電話で申し込む  
 その他 材料費は半額助成有り(450円～1,050円)

## インタビュー

市では、ごみの減量を市民の皆さんにお願いしています。ことし開業したふれあいエコプラザは、その推進施設。同施設は、市と市民エコ会議が協働で運営しています。代表の方に、地域の環境を考え活動している思いを語っていただきました。

## 一人一人が3Rを実践 未来ある子らのために



安藤克子(あんどうよしこ)さん  
 NPO法人市民エコ会議理事長。家庭内での生ごみ処理の普及に力を注いでいる

私たち市民エコ会議は、平成18年、リサイクル活動をしている「もの」と心を大切に「する会」と、まち作り市民協会の環境部会に参加する有志で設立しました。主な活動は、持続的発展が可能な循環型社会の形成を目指す。廃油石けん作り、ボカシやコンポストを使った生ごみの堆肥化の普及、小学生を対象にした環境学

習の授業など環境について広く発信しています。良い環境でない植物も動物も、そして人間も安心して暮らしていくことができません。この気持ちを私たちの合い言葉として活動しています。そして何よりも子どもたちが、今後も安心して暮らしていける環境を、自分たちのできる範囲で維持していくことが大切です。

特にことしから「ふれあいエコプラザ」という、一人一人が環境について考えていただける拠点が整いました。常設化してからは、市民の環境意識が向上したように感じます。利用者からは「このごみは何の資源になりますか」と聞かれます。エコプラザには、ごみは何の資源になるか看板に書いてあるので、会場で分別すれば、環境学習にも役立ちます。

市は、可燃ごみを処理してRDF炭化物を作っています。その過程では、ごみを乾燥させるために燃料を使っています。特に生ごみの乾燥には多くの燃料が必要となり、自然に負荷をかけているのも事実。冷暖房、電気、自動車、そして生ごみなど私たちの生活は、より良い暮らしのために自然に負荷をかけているかも知れません。生ごみを堆肥化して「燃やさず、土に還す」ことも自然豊かな循環型社会の一つの姿ではないでしょうか。

まずは一人一人が自分のできる3Rを行うことです。そのヒントがふれあいエコプラザにあります。皆さんぜひ、一度見に来てくださ。環境のために。そして未来ある子どもたちのために。